

観測ロケットS310 TMAは結構明るい

H2ロケット7号機の打ち上げ以来、当地松阪からでも種子島や内之浦からのロケットの打ち上げが見える可能性があることがわかり、チャンスがあるたびに写真撮影や肉眼での確認に挑戦してきましたが、このところは泣かず飛ばずでありました。

そのようなところで、先日、2013年7月20日の夜にJAXA(ISAS)の観測ロケットS310とS520の連続打ち上げがありました。

この一連のロケットは、電離層(熱圏)の大気の状態を観測するのが目的ですが、アマチュア的には風向・風速を測定するために放出されるTMA(トリメチルアルミニウム)やリチウムイオンが地上からどのように見えるのかということでした。TMAのほうは、ロケットから放出されると直ちに自然発火してたなびく煙となるため月光の下でも確認できそうな雰囲気でした。一方で、リチウムの発光は炎色反応と同じで励起するエネルギーが必要で、これまでも、観測ロケットからリチウムイオンを放出し、「宇宙花火」が観測できるチャンスがあり、これらは太陽光を励起エネルギーとしていたため、各地で良く観測できました。(但し、当地では残念ながら悪天候に阻まれてみる事ができませんでした。)今回の実験ではそのエネルギーを月光から求めるということなので条件的には非常に厳しいことが予想されました。

さて、当日です。九州地方は良く晴れているものの、紀伊半島周辺は不安定な天候で雲も多く、どこまで見通せるのか微妙な状況でした。おまけに、JAXAの広報は情報の出し方にムラがあって、今回は正確な打ち上げ時刻のアナウンスが直前になっても行われずに、ニコニコ動画のネット中継で時刻を確認することになりました。

そんな訳で、どうにも不安要素の多い観測だったため、安全策をとって広角系のレンズで連続撮影をしながら、双眼鏡で発光雲を探しました。

南西の空を双眼鏡で見ると、いたるところに雲が浮かんでいて月光でうすぼんやりと光っていました。星も良く見えないので、空が太平洋沖まで見通されているのかもどうか良くわからない状態で、結局、肉眼では何も見ることができませんでした。しかしながら連続撮影のカメラは優秀で、TMAの放出のほうは下り時の排出をきれいに捕らえることができました。(昇り時の排出は我が家からは死角になるのでもともと見えないことがわかっていました。)一方で、リチウムのほうは、予想どおり何もわからない状態で終わってしまいました。

今夏は、これからも引き続き、H2Bロケット4号機、イプシロンロケット初号機の打ち上げが控えています。当地からの観測は、H2Bのほうは明け方でもう明るくなってきているので条件が微妙、イプシロンは真昼なので絶望的であります。それでもネット中継を横目で見ながら南西の空をながめてしまいうらなうなあ。



メカが大好き 充電式の電気スタンド

車で観望に出かけたとき、機材の設置・撤収の際に周辺を明るく照らすことのできる電灯はないかなあと、物色をしていました。つり道具店とかアウトドア専門店とか、折々に巡ってみたものの、適当なものが見つからず、そんな中で家電量販店で充電式の電気スタンドというのを発見しました。アマゾンで検索してみると、同じような製品が 1,700 円から 3,000 円くらいまであります。どうも値段によって仕上げの具合が違うようで、性能にも差があるらしい雰囲気です。ちなみに先の量販店では 5,000 円ほどしていたのですが、同じ製品を 3,000 円弱の値段がついていたので、結局これを購入することにしました。

届いた製品は、写真のような感じで、温度計や時計もついていて、それなりに便利に使える感じがです。



Books & CDs Kiss / 講談社

今回紹介するのは、講談社の月刊漫画雑誌 Kiss です。講談社というと少女フレンド系で、個人的にはあまり馴染みがないのですが、2つの注目すべき漫画が連載になっているので、買ってしまいました。

雑誌の中で興味ある作品が1つなら流すところですが、この組み合わせはとってもし指をそそります。

かといって、毎月立ち読みというわけにもいかないし、悩ましいところです。

その1つが有賀工氏作の「オールの雲から」です。この漫画は、大学の天文部を舞台にしたラブコメで、作者自身や近い方が天文趣味をよく知っておられるとみえて、ところどころに星屋がついにヤリとしてしまうエピソードが登場します。残念ながら連載が始まったばかりでコミックスは発売されておりませんが、発売の折にはぜひ手にとってみてください。



そしてもうひとつが、テルマエロマイで有名なヤマザキマリ氏が連載している「スティーブ・ジョブズ」です。いわずと知れた Apple の CEO であった故ジョブズ氏の伝記物語であります。それなりに面白く読めるものの、こっちは原作の物語を消化するのに要求される知識レベルがオタクすぎて、水準に届いていないなあと感じます。

編集雑記

イトカワの微粒子が公開されるということで、上京したついでに国立科学博物館へ行ってきました。展示されている微粒子は、1 分間のタイマーがついた顕微鏡にセットされていて、スイッチを押してから照明が消えるまで、ステージを回転させたり倍率を変えたりして観察できるようになっています。これでは、まるで観光地の双眼鏡か江戸時代の見世物小屋であります。

にはお母さんに連れられた小学生がたくさんいて、待ち時間が少々かかりましたが、お目当ての微粒子に会うことができよかったです。

その一方で、特別展のダイオウイカのほうは、炎天下で待ち時間 20 分という状態だったので、条件の厳しさに断念しました。

観察できるのはひとり1分ですから1時間で 60 人となり、人気となれば結構厳しい制限です。あんまりたくさんの方が並んでいたらあきらめなければなあと思いながら会場（地球館2F）に行くと、意外にも列の長さは 10m 程度で、案外簡単に見えそうでした。実際のところは、列が短い割



Kz_Wada
和田一人